

## ⑫ 公開特許公報(A) 平3-88467

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>H 04 M 3/50  
3/42

識別記号

庁内整理番号

7925-5K  
7925-5K

⑬ 公開 平成3年(1991)4月12日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 通話音声録音方式

⑰ 特 願 昭63-177646

⑱ 出 願 昭63(1988)7月15日

⑲ 発 明 者 大 橋 昇 平 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑳ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

㉑ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

## 明 細 書

発明の名称

通話音声録音方式

特許請求の範囲

複数の電話機と、複数の局線及び前記複数の電話機を収容する構内交換機とから成り、前記構内交換機は音声記憶部を備えて、前記電話機が通話状態に送信した予め定められた制御信号を受信すると通話状態の前記電話機の通話音声の前記音声記憶部に記憶すべく制御する制御手段を有することを特徴とする通話音声録音方式。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は通話音声録音方式に関する。

〔従来の技術〕

従来の通話音声録音方式の一例について図面を参照して説明する。

第3図は従来の通話音声録音方式の一例を示すブロック図である。

第3図において、電話機(以下TELと記す)2は構内交換機(以下PBXと記す)1a内のライン回路(以下LCと記す)13、スイッチネットワーク(以下NWと記す)11、局線トランク(以下COTと記す)12を介して局線と通話中であるとする。この状態において、TEL2の通話者が、通話内容を録音する場合、TEL2に付属している録音装置(以下RECと記す)6を使用していた。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来の通話録音方式は、電話機に付属している録音装置を使用して通話音声を録音していたので、電話機と同等数の録音装置が必要であり、又、電話機の他に録音装置の設置スペースが必要であるという欠点がある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の通話音声録音方式は、複数の電話機と、複数の局線及び前記複数の電話機を収容する構内

交換機とから成り、前記構内交換機は音声記憶部を備えて、前記電話機が通話状態に送信した予め定められた制御信号を受信すると通話状態の前記電話機の通話音声の前記音声記憶部に記憶すべく制御する制御手段を有している。

〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すブロック図、第2図は本実施例の通話音声録音操作手順を示すフローチャートである。

第1図において、本実施例の通話音声録音方式はTEL2と、局線及びTEL2を収容するPBX1とを有して構成し、PBX1は局線にインタフェースするCOT12と、TEL2にインタフェースするLC13と、ダイヤル信号を受信して蓄積する発信レジスタ(以下RSTと記す)16と、通話音声を記憶する音声メモリ部(以下VMEMと記す)17と、COT12とLC13とを介して局線とTEL2とを接続するスイッチネットワーク(以下NWと記す)11と、NW11に

割込み通話路を形成する割込ランク(以下OFTと記す)18と、PBX1全体を制御する中央処理装置(以下CPUと記す)14とを有して構成する。

次に、本実施例の通話音声を録音する場合の動作について、第1図、第2図を併用して説明する。

第1図においてTEL2が、TEL2-LC13-NW11のa-COT12-局線の接続路で通話中であるとする。

次に、TEL2の通話者がフッキング(第2図のS1.)をすると、LC13がそれを検出してCPU14に検出信号を送る。CPU14はNW11のbを介してLC13とRST16とを接続させる。RST16は第2発信音をTEL2に送出する(第2図のS2)。

次に、TEL2の通話者は予め定められている通話音声の録音を要求する特殊番号をダイヤル(第2図のS3)すると、RST16がそれを受信してCPU14に送る。CPU14は受信したダイヤル信号を識別し、通話音声の録音要求である

- 3 -

- 4 -

とVMEM17を捕捉し、通話音声の録音の準備をする。

次に、TEL2が再びフッキングをすると(第2図のS4)、CPU14はVMEM17-NW11のd-OFT18、LC13-NW11のc-OFT18及びCOT12-NW11のe-OFT18とNW11内にVMEM17への接続路を形成し、VMEM17に通話録音できるネットワーク路を構成する(第2図のS5)。上記の結果、TEL2の通話者と局線を介しての相手話者との音声はVMEM17に録音される。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、構内交換機内部に音声記憶部を設けて、それをシステム共通の録音装置として使用することにより、従来の録音装置を電話機に対応して設ける必要もなく、又その設置スペースも全く必要としないので、経済的に通話音声を録音させることができる効果がある。

- 5 -

図面の簡単な説明

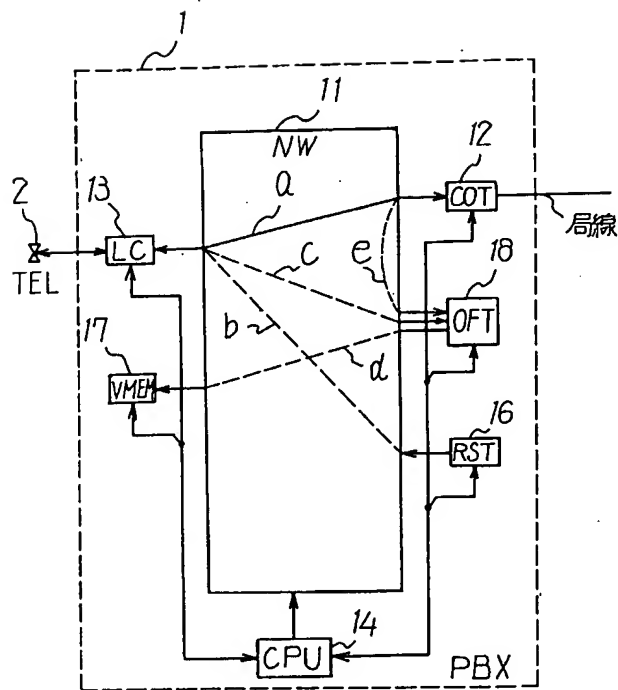
第1図は本発明の一実施例を示すブロック図、第2図は本実施例の通話音声録音操作手順を示すフローチャート、第3図は従来の通話音声録音方式の1例を示すブロック図である。

1、1a…構内交換機(PBX)、2…電話機(TEL)、11…スイッチネットワーク(NW)、12…局線トランク(COT)、13…ライン回路(LC)、14…中央処理装置(CPU)、16…発信レジスタ(RST)、17…音声メモリ部(VMEM)、18…割込トランク(OFT)、21…録音装置(REC)。

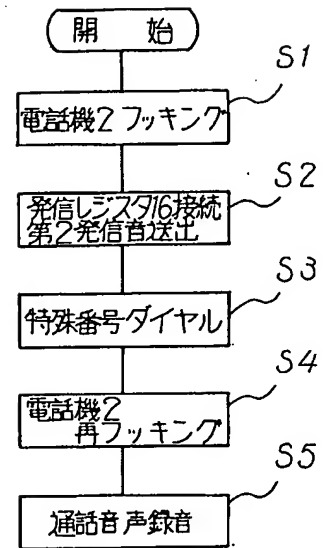
代理人 弁理士 内 原



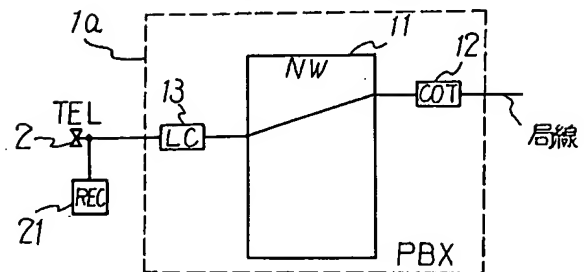
- 6 -



第 1 図



第 2 図



第 3 図